

銚子の農業

1 はじめに

銚子の農業は、肥沃な土壌と冬暖かく夏涼しい海洋性気候を活用した各種野菜の生産と畜産が盛んで、県内、トップクラスの農業産出額を上げています。野菜では、キャベツやだいこん、食用とうもろこし、トマト等の栽培が盛んで、とりわけ、春キャベツと春だいこんの作付面積は全国一(平成28年「作物統計」農林水産省)を誇り、日本を代表する野菜産地の一つとなっています。

高い農業生産を支えているのは560戸の専業農家を中心とした優れた担い手と銚子野菜連合会をはじめとした各生産出荷組織です。毎年10人前後が新規就農者として就農して担い手も確保されており、露地野菜を中心に規模拡大が進む中、今後も首都圏などへの食糧供給基地としての発展が期待されています。

銚子市の農業をさらに発展させ、安全・安心な農産物を消費者に届けるために、堆肥や緑肥などによる土づくりや減農薬・減化学肥料栽培などにも積極的に取り組んでいます。加えて、真っ黒スイカコンテスト、チャリティーバザー、朝市など消費者との交流を進めるとともに、企業との連携による野菜の消費拡大を図るなど、国民の健康増進に貢献できる産地の構築を推進しています。



写真1 みずみずしく柔らかい銚子の春系キャベツ

2 農業の概要

銚子市の総耕地面積は2,540haで、うち水田面積は545ha、畑地面積は1,990haとなっており、畑作中心の営農が展開されています(平成28年農林水産省「耕地及び作付面積統計」)。販売農家戸数は1,007戸で、うち専業農家が560戸、第1種兼業農家300戸、第2種兼業農家147戸となっており、専業農家率は55.6%で千葉県平均の30.6%を大きく上回り、県内トップとなっています。農家1戸当たりの耕地面積は230aで、経営耕地面積規模別経営体数では300a以上の農家が全体の24%に相当する245戸を占め、年々1戸当たりの経営耕地面積規模は拡大しています(2015年農林業センサス)。

農業産出額は、県内トップクラスの268億円で、その内訳は野菜が152億円で全体の57%を占め、次いで畜産が110億円、米が4億円となっています(農林水産統計平成26年被災市町村別農業産出額)。産出額の高い主な品目としては、キャベツ、鶏卵、だいこん、豚、トマトなどがあげられます。その他にも、メロン、すいか、いちご、にんじん、えだまめ等多品目の野菜が栽培され、近年では夏秋期の収入確保に青パパイヤの産地化へ向けた取組がされています。

主な作物の作付面積は、次の通りです。

作物名	作付面積 (ha)	作物名	作付面積 (ha)
キャベツ	1,908	メロン	50
だいこん	974	にんじん	26
水稻	471	すいか	22
ばれいしょ	51	いちご	12
トマト	51	落花生	7

注) キャベツ、だいこん、水稻、トマトは、平成28年「作物統計」農林水産省
落花生は、銚子ゆでピー生産組合 平成29年総会資料
その他品目については、「2015年農林業センサス」より引用

3 今後の取り組み

銚子市の農業をさらに発展させるため、意欲的な農業者の経営を銚子市・J A・試験研究機関・農業事務所で構成する「銚子市農業振興会議」が中心となって支援していきます。近年、気象災害も多いことから適切な栽培管理・病虫害防除の徹底等により、農産物の生産量・品質の向上に取り組んでいきます。さらに、この20年で3ha以上の農家数が約2.5倍と大幅に増加していることから、経営規模拡大に対応した農業経営の効率化、労働力の確保、ICTの活用等により地域の農業振興を目指していきます。